

一步先の教育へ

—三中が大切に学ぶと育ち—

令和8年6月19日

副校長 渡辺 千寿

「いたづらを防ぐ環境づくりに『いたづらをしない心づくり』の視点を加えた生活指導」

学校の教育目標や経営方針について、先生方とより深く共有するとともに、若手の先生方の参考になればという思いから「副校長通信」を発行することにしました。不定期発行となりますが、よろしくお願いいたします。

1 安心・安全を土台とした「環境づくり」と「心づくり」

これまで三中では、生徒が安心して学校生活を送れるよう、安全確保を最優先に考えた生活指導を積み重ねてきました。問題行動やいたづらに対しては、「触れない場所に置く」「立ち入り禁止の表示をする」など、生徒が物に触れたり場所に入ったりできないようにすることで、問題行動を未然に防ぐ指導を行ってきました。こうした取組は、生徒の安全確保や落ち着いた教育環境の維持につながり、本校の安定した学校運営を支えてきました。また、二年前の三中と比べると、生徒の生活の様子は着実に落ち着きを見せており、これまでの先生方の粘り強い指導の成果が表れていると考えられます。

一方で、学校の状況が改善してきた現在においても、問題行動への対応が「触れさせない」「入らせない」といった予防的な指導に偏る場面が見られます。こうした指導は問題行動の防止には有効ですが、生徒がなぜその行動をしてはいけないのかを理解し、自ら判断して行動する力の育成にはつながりにくい面があります。そのため、目の前のいたづらを防ぐことはできても、別の対象を見つけて同様の行動を繰り返してしまう可能性があります。

これからの生活指導では、安全確保のための環境整備を大切にしながらも、「いたづらを防ぐ環境づくり」に加えて、「いたづらをしない心づくり」を進めていくことが重要です。生徒が自ら考え、判断し、よりよい行動を選択できる力を育む視点を、生活指導の中に取り入れていきたいと考えます。

2 三中が目指す生徒像とのつながり

こうした取組は、本校の教育目標である「思いやりのある生徒」「主体的に学び行動する生徒」「協力する生徒」の育成につながるものです。

生徒一人一人が自ら考え、判断し、行動する力を身に付けることで、他者を尊重しながら社会の中で主体的に生きる力の育成が期待できます。

3 学校全体で大切にしたいこと

学校全体で大切にしたいことは、生徒の主体性と自己調整力を育むことです。主体性とは、自ら考え行動する力、自己調整力とは、自らの学習や行動を振り返り、改善していく力です。これらの力は、生活指導だけでなく、授業や学校行事、部活動など教育活動全体を通して育まれます。そのため、学校全体で指導の方向性を共有し、一貫した教育活動を推進していくことが重要です。

4 おわりに

これからも安全確保のための環境整備は欠かせません。しかし、「触れさせない」「入らせない」「できないようにする」といった未然防止の取組だけでなく、生徒自身が行動の意味や周囲への影響を考え、よりよい行動を選択できる力を育むことが重要です。

生徒たちは、いずれ三中を卒業し、自ら判断しながら社会の中で生きていきます。だからこそ、目の前の問題を防ぐだけでなく、自らを律し、他者を思いやりながら行動できる力を育てていかなければなりません。そのためには、教職員一人一人が指導の目的を共有し、同じ方向を向いて生徒の成長を支えていくことが大切です。

今後とも、ご理解とご協力をよろしくお願いいたします。